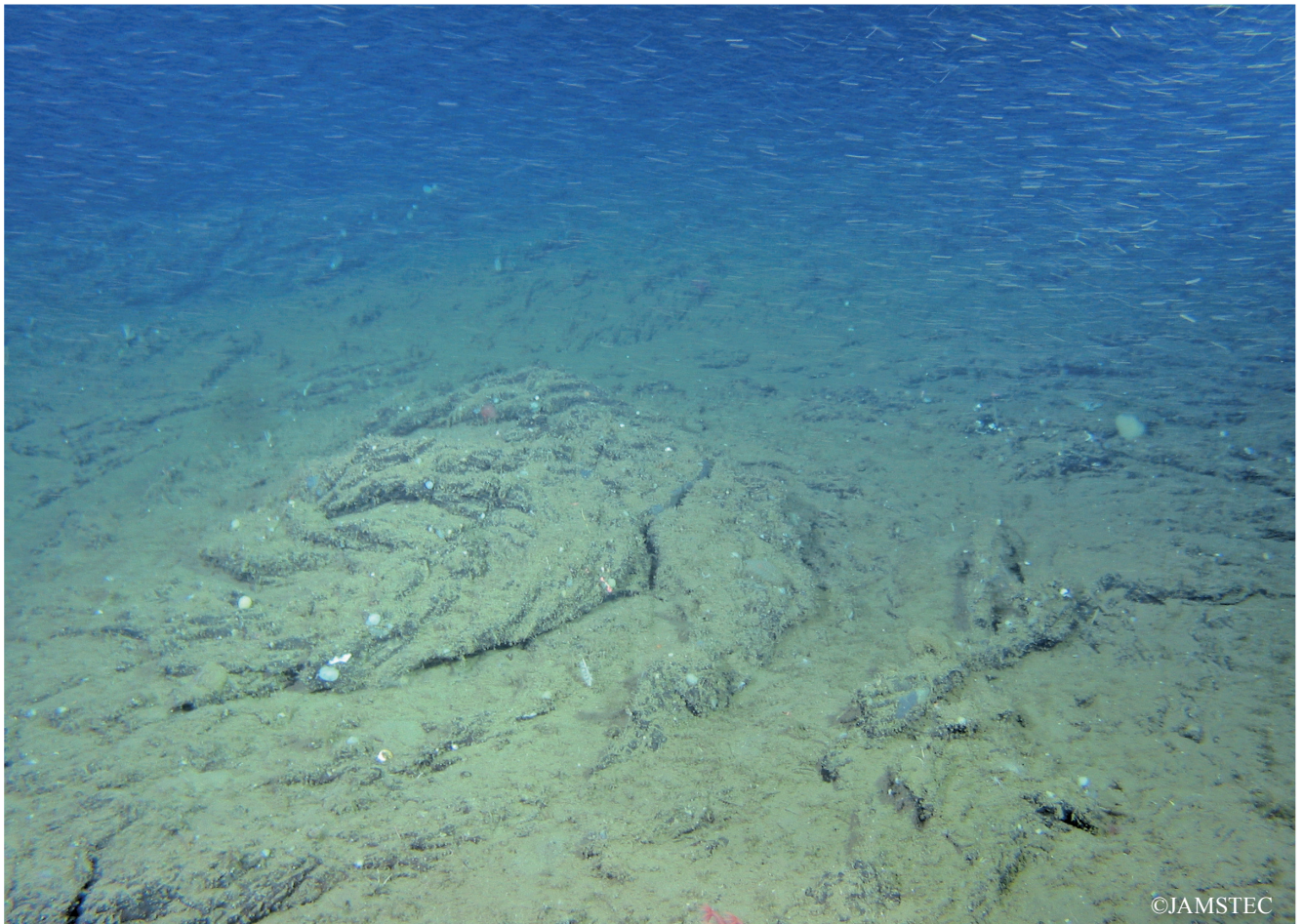


自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 19, No. 3 神奈川県立生命の星・地球博物館 Sept., 2013



©JAMSTEC

深海の造形の妙

渦巻く溶岩

ハイパードルフィンにて撮影

伊豆大島と伊豆半島間の海底
北緯 34-51.287 東経 139-12.662
水深 1006.9 m (p. 20, 図 1 の②)
2008 年 9 月 28 日 14:02'32"

ふじおかかんたろう
藤岡換太郎

KO-OHO-O の会 *

* 21 ページ右下を参照

海洋研究開発機構 (JAMSTEC) の無人探査機「ハイパードルフィン」のカメラが、珍しい渦巻き状の溶岩を捉えました。伊豆大島の西、熱川沖の比較的水平な水深約 1000 m の海底です。この海域は、新しい玄武岩質溶岩で覆われています。一般に冷たい深海底では、玄武岩マグマは急冷して枕状溶岩（断面が枕のような丸い形の溶岩）を形成します。実際に、枕状溶岩も多く見られました。しかし、写真の溶岩は渦巻きの形をしています。このような形は、高温で粘性の低いマグマが大量に噴出し、

その表面が冷えても全体はまだ十分に熱く、マグマの連続的な供給により表面が固まりながら回転していたためにできたと考えられます。このほか、より粘性の低いタイプのシートフロー（薄い板状の溶岩）も見られました。このような溶岩の特徴が、全長 16 km にもわたってつらなる「熱川沖長大溶岩流」を形づくったと考えられます。これらの溶岩の表面はほとんど堆積物に覆われておらず、カイロウドウケツ（海綿）やソフトコーラル（サンゴ）などの付着生物が見られました。